

表1 医療従事者（注1）の曝露のリスク評価と対応

患者と接触したときの状況	曝露のリスク	健康観察の方法（注5） （最後に曝露した日から 14日目まで）	無症状の医療従事者に対する 就業制限
顔面（眼、鼻、口のいずれか）を個人防護具で覆わずに、大量のエアロゾルを生じる処置（注2）を実施したか、実施中に室内にいた。	高リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間の就業制限
ガウンおよび手袋を装着せずに、多量のエアロゾルを生じる処置（注2）を実施したか、実施中に室内にいた。 ※顔面（目、鼻、口のいずれか）を個人防護具で覆っていなかった場合は、上の高リスクカテゴリーに入る。	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間の就業制限
顔面（眼、鼻、口のいずれか）を個人防護具で覆わずに、マスクを <u>着けていない</u> 患者と長時間（注3）、濃厚接触（注4）した。	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間の就業制限
顔面（眼、鼻、口の全て）を個人防護具で覆わずに、マスクを <u>着けていた</u> 患者と長時間（注3）、濃厚接触（注4）した。	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間の就業制限
手袋を着けずに、分泌物や排泄物と直接接触し、直後に手指衛生を行わなかった。 ※接触直後に手指衛生を実施した場合は低リスクと判断する。	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間の就業制限
マスクまたはN95マスクをつけて、マスクを <u>着けている</u> 患者と長時間（注3）、濃厚接触（注4）した。	低リスク	自己	不要
患者またはその分泌物/排泄物との接触時に推奨されるすべての個人防護具（表1参照）を装着していた。	低リスク	自己	不要
推奨されるすべての個人防護具を装着せずに、患者（マスク着用の有無は問わない）と短時間（注3）接触した。（例：受付で短い会話を交わす、病室内に入ったが患者やその分泌物/排泄物との接触はない、患者が退室直後の病室に入る）。	低リスク	自己	不要
患者のそばを歩いた、または、患者やその分泌物/排泄物と直接接触せず、病室にも入らなかった。	リスクなし	不要	不要

Interim U.S. Guidance for Risk Assessment and Public Health Management of Healthcare Personnel with Potential Exposure in a Healthcare Setting to Patients with 2019 Novel Coronavirus (2019-nCoV) をもとに作成

注1 医療従事者

ここでいう医療従事者とは、医療機関で勤務するすべての職員を指す。

注2 大量のエアロゾルを生じる処置

気管挿管・抜管, NPPV 装着, 気管切開術, 心肺蘇生, 用手換気, 気管支鏡検査、ネブライザー療法、誘発採痰など

注3 接触時間

ここでいう接触時間の長さは以下を目安とする。

長時間：数分以上

短時間：約1～2分

注4 濃厚接触

ここでいう濃厚接触とは、以下の①または②を意味する。

① 新型コロナウイルス感染症患者の約2メートル以内で長時間（注3）過ごす。

② 個人防護具を着用せずに新型コロナウイルス感染症患者分泌物や排泄物と直接接触する（咳をかけられる、素手で使用済みのティッシュに触れるなど）

濃厚接触の有無を判断する際は、接触した時間（長いほうが曝露の可能性が高い）、患者の症状（咳がある場合は曝露の可能性が高い）、患者のマスク着用の有無（着用していれば飛沫による他者や環境の汚染を効果的に予防することができる）についても考慮する。

注5 健康観察

以下の二つの方法がある。いずれの場合も症状が出現した時点で直ちに他の人から約2m以上離れ（マスクがあれば着用し）、病院に電話連絡のうえ受診する。

積極的：医療機関の担当部門が曝露した職員に対し、発熱または呼吸器症状（咳、息苦しさ、咽頭痛）の有無について1日1回、電話やメール等で確認する。

自己：曝露した職員は発熱または呼吸器症状（咳、息苦しさ、咽頭痛）を認めた場合に、直ちに医療機関の担当部門に連絡する。